

# ドクター+フジ

## 舞台遠ざけた圧迫骨折



### ニッポン ドクター和の 臨終区巻

夫婦、不思議な縁で結ばれし男と女。もつれ合い化かし合い許し合う、この長き旅の道連れに幸せあれ！  
私が子供時代に人気だったテレビ番組『唄子・啓助のおもしろい夫婦』のエンディングに流れていた詩です。

離婚した後もコンビを続けた唄子・啓助でしたが、鳳啓助さんは1994年にがんて死去。その後、京唄子さんはドラマ『渡る世間は鬼ばかり』などで女優として活躍しましたが、4月6日に肺炎で旅立たれました。89歳でした。

### ④ 京唄子



最近テレビで見かけないと思っていたら、2009年に腰椎圧迫骨折のために舞台を降板、それきりかたに、徐々に仕事から離れていたそうです。  
圧迫骨折は、高齢者に多い骨折です。ポキッと折れるのではなく、もろくなった骨がぐしゃっとつぶれてしまう状態です。

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

私は日々、多くの高齢者を診ていますが、「大丈夫！ この調子なら100歳まで元気だよ」と太鼓判を押すほど元気な人でもある日突然、動けなくなるのが圧迫骨折というアクシデントです。とくに女性は加齢に伴い骨密度が低下してスカスカの状態。すなわち「骨粗しょう症」に陥りやすい。  
現在、わが国に骨粗しょう症の患者さんは1280万人もいるといわれています。ちよつと尻もちをついたり、せきやくしゃみをしたたりただけで圧迫骨折や肋骨骨折に至るケースもあります。また、知らぬうちに圧迫骨折している「いつのまにか骨折」の人も多くいます。

腰椎5本と胸椎12本の計17本すべてがいつのまにか骨折していた80代の女性がいました。背中が大きく曲がるため高度の逆流性食道炎も併発していました。この人を詳しく調べる

と、脳下垂体から出るホルモンの異常が判明して脳の手術で骨粗しょう症が改善されたということもありました。

高齢者は圧迫骨折するたびに生命予後は悪化します。転倒↓骨折↓入院↓認知症の進行↓食欲低下↓さらに認知症悪化↓寝たきり…と、転倒・骨折を契機にドミノ倒しのように全身状態が悪化する人が少なくありません。  
70歳を過ぎたら骨粗しょう症予防を心がけましょう。それには日々の紫外線を浴びながらのウォーキングとカルシウムやビタミンDを多く含んだ食生活が大切で、お薬に頼りっぱなしは感心しません。

唄子さんは2回ほど腰の手術を受けましたが、思うようには回復せず、2013年に腰椎変性すべり症も発症。車いす状態となり精神的ショックから胃潰瘍も併発しました。それでも昨春秋ごろまでは意欲十分でしたが、徐々に衰弱し、最近では来客も断っていたようです。

私の脳裏に焼き付いているのは、元気でたくましかった夫婦漫才のお姿です。天国で今ごろ、「このエロガッパ！」と啓助さんにつっこんでいることと思います。